

2020. 2. 25

畑 啓之

日本の成人は7年前には世界一の能力を持っていた OECD 国際成人力調査より

日本人の能力は最近低下傾向であり、その結果、発明や富を生み出す力が衰えたのではないかとの（自虐的な）議論が新聞紙上をにぎわすことが多くなったように感じている。日本人の自信喪失、さらにその傾向を助長するマスコミ報道といった構図である。

しかしながら、日本人の能力は国際的に見てまだ捨てたものではないとの調査結果がある。日本の成人の読解力、数的思考力、IT の活用能力がいずれも OECD に属する国の中で1番である。7年前の結果であるので、現在とは事情が違うのではないかとの意見があるかもしれないし、受験者のサンプリング自体に問題があるのでは、との意見もあることと思う。

受験者のサンプリングに関しては、「OECD 国際成人調査 調査結果の概要(文部科学省)」  
([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/data/Others/\\_icsFiles/afieldfile/2013/11/07/1287165\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/Others/_icsFiles/afieldfile/2013/11/07/1287165_1.pdf)) に次のように記されている。

平成 23 年 12 月 1 日を基準日として、16 歳以上 65 歳以下の男女 11,000 人を住民基本台帳から層化二段抽出法によって無作為に選定し、5,173 人より回答を得た。

この国際成人力調査は日本人全体としての能力を測るものである。日本が国際競争を生き抜いていく上では、奇抜な発想（創造力）と強力な実行力を持つ人材が必要となってくる。日本人は人と同じであるということを美徳としているが？、その殻を破っていくことがこれからは日本には重要となってくる。令和の世を迎え、世界情勢は激動している。日本は今まさに新たな明治維新の真ただ中にいるといっても過言ではないと感じている。

#### 国際成人力調査 (Wikipedia)

経済協力開発機構 (OECD) の成人のスキルを評価する世界規模の調査である。この調査は OECD 各国の知識基盤社会における読解力、数的思考力、そして問題解決能力のスキルを評価し、各国国民のこれらのスキルを向上させるための情報を提供するのが主目的である。労働力人口 (16 歳から 65 歳まで) に焦点を合わせたこの調査は、2013 年 10 月 8 日にはじめて公表された。

読解力、数的思考力、IT を活用した問題解決能力の 3 分野のスキルを調査。また、年齢

や性別、学歴、職業などに関する背景調査を併せて実施。

知識の有無を問うのではなく、日常生活の様々な状況の中で情報を活用するスキルを重視。 数学の公式などの知識がないと解けない問題が出題されることはない。

## 読解力

社会に参加し、自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発展させるために、書かれたテキストを理解し、評価し、利用し、これに取り組む能力。

## 数的思考力

成人の生活において、さまざまな状況の下での数学的な必要性に関わり、対処していくために数学的な情報や概念にアクセスし、利用し、解釈し、伝達する能力。

## IT を活用した問題解決能力

情報を獲得・評価し、他者とコミュニケーションをし、実的なタスクを遂行するために、デジタル技術、コミュニケーションツール及びネットワークを活用する能力。

日本は、

読解力：296（1位）

数的思考力：288（1位）

IT を活用した問題解決能力(コンピュータ調査を受けた者の平均得点)：255（1位）

と、すべての領域において一番高い平均点数を獲得した国になっている。

レベル	読解力	数的思考力
欠損	このレベルの者はテストを完了できなかった。	
レベル1未満	176点未満 よく知っている話題についての短い文章を読み、特定の情報を1つ見つける。文章には迷わせる情報はほとんど含まれていない。基礎的な語彙に関する知識のみが必要で、センテンスや段落の構造を理解したり、その他の文章の特徴を利用する必要はない。	計算、並べ替え、自然数または金銭を使った基礎的な算数または一般的な空間の概念などの単純なプロセスを行う。
レベル1	176点以上、226点未満 比較的短い文章をコンピュータ上または紙面で読み、質問または指示された情報と同一または同義の情報を見つける。基礎的な語彙を理解し、文章の意味を判断し、まとまった文章を読む知識とスキルが評価される。	数理的な内容が明確な一般的な実際の状況で基礎的な数理的プロセスを行う。通常、計算、並べ替え、基礎的な算数、簡単または一般的な平面または空間図形の要素を特定する、1つの手順または単純なプロセスを行う。
レベル2	226点以上、276点未満 コンピュータ上または紙面で文章と情報とを照合し、言い換えや簡単な推測を行う。	自然数、小数、パーセント、分数の計算、簡単な測定と空間の概念、推計、文章と図表の中の比較的簡単なデータと統計の解釈を含む、2つ以上の手順またはプロセスの応用が求められる。
レベル3	276点以上、326点未満 このレベルで出される文章は、難解で冗漫なものが多い。文章と修辭的な構造を理解するとともに、コンピュータ上の複雑な文を探ることが求められる。 <b>日本 296</b>	数の感覚と空間覚の応用、言葉または数字で表記された数理関係、図形、比率の理解と応用、および文と図表の中のデータと統計の解釈が求められる。 <b>日本 288</b>
レベル4	326点以上、376点未満 複雑な長文から情報を集めて理解し、まとめる複数段階の操作を行う。多くの問題で、具体的な1つ以上の中心的でない考え方を見つけて理解し、わずかな証拠しかない主張または説得力のある対話を解釈、評価することが求められる。	数量とデータ、統計と確率、空間関係、換算、割合、公式について分析とより複雑な推論が求められる。また、回答または選択について、論点を理解し、理論的な説明が求められる。
レベル5	376点以上 複数の難しい文全体から情報を探してまとめる、類似および対照的な思想または見解を要約する、または証拠に基づいた議論を評価することが求められる。回答者は微妙で修辭的な手がかりをみつけて、高度な推測を行ったり、専門的な背景知識を用いる必要がある。	相当量の変換と解釈を必要とする数理的情報を複数まとめる、推論を引き出す、数理的理論またはモデルを開発・応用する、解答または選択の批判的考察などが求められる。

OECD 国際成人力調査 調査結果の概要（文部科学省）

表 1. PIAACの分野別結果の各国比較

( )内は順位

国名	読解力 平均得点	数的思考力 平均得点	ITを活用 平均得点
<b>OECD平均</b>	<b>273</b>	<b>269</b>	<b>283</b>
オーストラリア	280( 4)	268(13)	289( 3)
オーストリア	269(17)	275(10)	284( 7)
カナダ	273(11)	265(14)	282(12)
チェコ	274( 9)	276( 9)	283( 9)
デンマーク	271(14)	278( 7)	283( 8)
エストニア	276( 7)	273(11)	278(16)
フィンランド	288( 2)	282( 2)	289( 2)
フランス	262(21)	254(20)	m
ドイツ	270(15)	272(12)	283(11)
アイルランド	267(20)	256(19)	277(18)
イタリア	250(23)	247(22)	m
<b>日本</b>	<b>296( 1)</b>	<b>288( 1)</b>	<b>294( 1)</b>
韓国	273(12)	263(16)	283(10)
オランダ	284( 3)	280( 4)	286( 6)
ノルウェー	278( 6)	278( 6)	286( 5)
ポーランド	267(19)	260(18)	275(19)
スロバキア	274(10)	276( 8)	281(13)
スペイン	252(22)	246(23)	m
スウェーデン	279( 5)	279( 5)	288( 4)
アメリカ	270(16)	253(21)	277(17)
ベルギー	275( 8)	280( 3)	281(14)
イギリス	272(13)	262(17)	280(15)
キプロス	269(18)	265(15)	m

図 9. 読解力と年齢の関係(OECD平均と日本の比較:16~65歳)

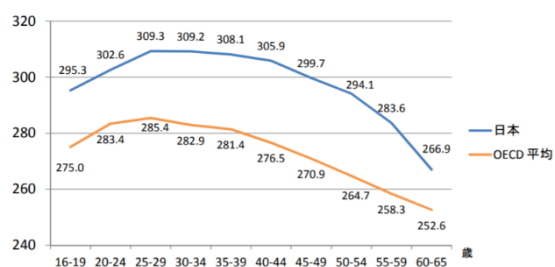


図 10. 数的思考力と年齢の関係(OECD平均と日本の比較:16~65歳)

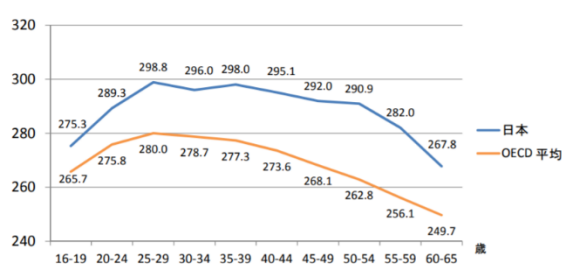


図 11. ITを活用した問題解決能力と年齢の関係(OECD平均と日本の比較:16~65歳)

